

大分県要約筆記サークル

陽ざしの会

第 71 号

発行日 平成 25 年 7 月 20 日

発行所 大分県要約筆記サークル

「陽ざしの会」

発行者 森崎 裕香子

事務局 野上 千賀子

(Tel.097-532-6850)

お互いの立場を思いやって

「くわんじゅ」 「くわんじゅ」 「くわんじゅ」 「くわんじゅ」

平成 25 年度

「陽ざしの会」 定期総会の開催

平成 25 年度『陽ざしの会』定期総会は 4 月 20 日(土)午後 1 時から大分県総合福祉会館において、会員総数 58 名の内、42 名(委任状 24 名)が出席し、来賓祝辞の大分県聴覚障害者協会理事 佐藤ヤスエ氏、大分県難聴者協会会長 保原直猛氏のご臨席をいただき開催された。

木許保代氏の司会のもと、最初に森崎裕香子会長から挨拶があり、「会員各位、多忙のことと思われるが『陽ざしの会』の諸事業に積極な参加を要請する」旨、述べられた。引き続き来賓祝辞から総会への祝意の挨拶があり、特に保原会長からは「要約筆記ではわかりやすい文字で書くこと」との要望があった。

総会議事に入り、磯田ひろみ氏が議長に就任し、執行部から「平成 24 年度活動報告」「同会計決算報告」があり、異議なく承認された。引き続き「平成 25 年度活動計画(案)」が付議され、満場一致で可決された。今年度も引き続き「要約筆記」の周知のため、その活用について関係諸団体に要請していくこととなった。

役員選出に入り、執行部の提案のとおり選出された。

総会は 14 時 30 分閉会となった。諸般の事情もあり、例年と比べて出席者が少なくやや寂しい総会となった。

望月 博



新体制でスタート

平成25年度の総会も、会員の方々の御協力をいただき終えることができました。又、お忙しい中、御来賓に、大分県聴覚障害者協会理事 佐藤ヤス卫様、大分県難聴者協会会長 保原直猛様の御出席、御祝辞をいただき感謝致しております。今年度も、昨年に続き周知活動を続けます。会員全員が活動に取り組む意識は大切です。しかし方法は日常的に一人でも発信できるものもあります。陽ざしの会のリーフレットや関係機関のリーフレットにも要約筆記のことが書かれています。これらのものをいつでも手渡しができるようにするのも、一つの手段と思います。終わりにになりましたが各関係機関の方々に御助言、御協力等をいただきましてありがとうございました。本年度も昨年度同様よろしくお願い申し上げます。

会長 森崎裕香子



事務局を担当するようになって、4年目になります。毎年の行事や事務処理など、繰り返すうちにマンネリになっているような気がします。新しいことに目を向けたり、今までの内容を見直す必要があるのではないかと考えています。そういうことは自分ではなかなか気づきにくいので、新役員や会員の皆さんからの意見、提案をお願いしたいと思います。県内の他サークルや、他県との交流なども新しい方向性が開けるきっかけになるのではないのでしょうか。外に目を向けて、大いに飛躍できる年にしたいものです。

事務局 野上千賀子



こんにちは。企画部長の久保田です。要約筆記に関わってやっと3年目。突然の依頼をつい受けてしまったものの、未だに不安でいっぱいです。企画部は私以外はみなさん大ベテラン。いろいろ教えてもらいながらやっていきたいと思います。企画部では、今年度もピアガーデン・梨狩りなどの楽しい企画を予定しています。「陽ざしの会」のみなさん、ぜひ参加をして、日頃の疲れ、心と体をリフレッシュして下さい。多数の御参加をお待ちしています。

企画部長 久保田安紀

研修部長と言われ、動揺する私に森崎会長は「いっぱい勉強せんといけん人になるもんや」とニコニコ。確かに難しいとこ、できんところはやまほど言える。(ただ、それができないだけ!)。ぜひ、一緒にこの一年間、研修、練習を繰り返していきましょう。よろしくお願いします。

手書き研修部長 小寺淑子

昨年に引き続き
パソコン研修部長に 平野美佐子、
広報部長に 三重野真由美、
新たに会計に 間藤勝美が担当いたします。
よろしくお願いします。

大分市ボランティア連絡協議会に参加して



久松 久仁子

総会後の講演「高齢期、ボランティアで生き活きと」を拝聴しました。

問題のある青少年の多くは幼少期に「褒められる」「可愛がられる」という経験が無い子に見られ幼少期をしっかりサポートする必要がある。

「意欲ある人に成る」ための手助けを高齢期の方にしたい。「無欲な優しさ」は人の心を元気に回復させ生命を育む力がある」気持ちに余裕ができる高齢期には力がある。

ボランティアには色々あるが「相手の成長のために活動する」ことがニーズにあった活動になりお互いに生き々とできる。喜びの分かち合いは絆に変わっていく。

という内容でした。

日本文理大学の山岸治男教授の優しさが伝わる良いお話が聞けて感謝しています。

あなたは

デフリンピック

を知っていますか？



7月26日～8月4日までブルガリアのソフィアで行われる夏季デフリンピックに222名の日本代表の選手・役員が派遣されます。しかしながら知名度が2.8%と低く、オリンピック・パラリンピックの様な支援がなく派遣選手の自己負担が大きく出場を断念することもあるということでした。

このデフリンピック応援プロジェクトを通してデフリンピック知名度を上げ貢献することを目的として全国数か所でイベントが行われ、私は5月26日、福岡でのLIVEに参加してきました。

大分からはサッカー日本代表に渡邊選手が選ばれ活躍が期待されます。

日本代表を応援しましょう！

また、会場ではプロジェクターを2台使った要約筆記の現場を見ることができ勉強になりました。(三重野)



「陽ざしの会のあゆみ」⑨ 養成講座の開催(その8)

児玉 幸代

大分市で養成講座を開催して四年後、別府市、日田市、佐伯市、中津市でも開講してほしいとの要望があり、喜びの反面その準備に大変でした。けれども以前とは違い、受講生のテキストや、講師用の指導書に資料など、次々と出版されていきました。唯、開講のための講師や、その補助講師としての人材不足に困っていたのです。

そこで、事務局の河野キヨさんと話し合い、これまでの研修部を中心に、他の部の人々にも応援してもらい、講座員としての組織を作る事にしました。

新しく講座員になった各位は、研修部員から、講座に関する知識や技術を真剣に学び、講師としての実技指導には、講座員が受講生となつての実習で「にわか講師」の誕生。その講師の話を、熱心に聞いてくれる受講生に感謝しながら、あとに続く講師の養成。次々と講師の誕生！しかしその陰には、会員各位の並々ならぬ努力と、聴覚障がい者への熱い思いがあり、実に心豊かで責任感のある、当時の優秀な会員各位の顔が懐かしく目に浮かびます。勿論、要望のあった前記四市ともに、養成講座を実施することができました。

年も迫った十二月、東京で「第一回要約筆記講師養成講座」に出席の要請があり、私は三日間受講しました。その結果、私共が実施している大分での養成講座の方法や、内容と大差ないことが解り、安心し自信をもつことができました。

『8回大分県障がい者スポーツ大会』開催される

～いい汗かいて卓球～

牛島 尚子

5月16日(土)、第8回大分県障がい者スポーツ大会は、身体障がい者福祉センターの体育室にて『卓球』の試合が行われた。



リーダーの森崎さん、牛島・朝山・小野の4名の要約筆記者が参加。開会式や試合の結果など情報を伝達した。

難聴者の参加は、男性3人、女性4人で総あたりで行われた。

それぞれ、金・銀・銅のメダルが授与された。

顔なじみの人もいて、応援に熱がはいった。障がいがあっても、皆さん真剣に取り組む姿に感動した。

望月 博

平成25年5月26日(日)、早朝の雨もあがり、開会式に引き続き、大銀ドーム及びその周辺で、陸上競技、フライングディスク競技が行われた。水泳競技は市営温水プールで実施された。



本大会は「全国障がい者スポーツ東京大会」派遣への予選も兼ねており各競技者は観衆を圧倒する迫力で「投げ」「走り」「打ち」「泳ぎ」かつ楽しみながらそれぞれの種目に取り組んでいた。

「陽ざしの会」の会員も、開会式及び各競技に要約筆記者として参加し、朝から夕方の方の競技終了まで立ち姿のまま、「式」及び競技の円滑な進行のための活動を行なった。「陽ざしの会」からの活動参加者は、開会式10名、陸上競技4名、フライングディスク競技6名、水泳競技4名、卓球競技4名であった。

各参加者の感想としては「事前準備を含めて人数が足りない。もっと多くの参加者を。」という主張が多かった。

翌日の新聞を見ると、この大会を報ずる記事は全く見当たらず、「障がい者スポーツ」へのメディアの関心の低さに驚きを覚えた。

前日からの台風4号は温帯低気圧となり交通事情に影響なく、北海道から沖縄の会員が集いました。開会式後、基調講演は「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が参議院本会議で可決成立しました。この法案に携わった内閣府 障害者制度改革担当室長 東俊裕氏の「障害者制度改革の光と影」の講演でした。

その後、5つの分科会に分かれ、第1分科会は運動論「要約筆記事業の地域格差」第2分科会は組織論「組織の基本体力を高める」第3分科会は災害対策「安心・安全と思える街づくり」第4分科会は情報保障論「Let's 字幕付け」第5分科会は通訳論「要約筆記者の倫理って」がありました。

分科会に参加して学んで取得した技術は、地元を持ち帰り伝え活かしていけるものでした。

そしてこの集会のもう一つの楽しみは交流会です。もちろんお料理もですが、他県の要約筆記者、難聴者の方々とそれぞれの県での実態や状況などいろいろと話せることです。

私のテーブルは東京都、埼玉県、石川県、岡山県、沖縄県、福岡県の方々とそのうち難聴者はお二人でした。

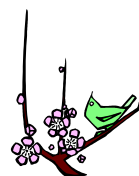
そして来年開催される石川県でお会いしたいですねという言葉でお開きになりました。二日間とても有意義な研修会でした。(仲摩)



ぶんどご梅

「緑の処方箋」

羽田 順子



風邪を拗らせて気管支炎になり、長引く咳に、気分が重い日々を過ごしていた。こんな時に、家の行事の話で、意見の相違が生じて夫と喧嘩になった。不愉快な気持ちは、拍車をかけて毎日続いた。何かにつけてネガティブな気持ちの波が打ち寄せて、「元氣印」が消えたような気力のない侘しい生活をしていた。

ある朝、台所の片付けを済ませて、静かに一服をしている時間であった。窓越しの庭に植物の緑が、強烈に膨らんでいるのに驚いて目を見張った。外に出て庭を気をつけて見ると、初夏を向かえた何の植物も、有らん限りの緑を丈いっぱい育て成長している最中だ。特に私の目に込んでびっくりさせたのは、キウイの木だ。側に寄り観察すると、たくさんさんの蔓が、力強く伸びて進んでいる。キウイの蔓の姿勢は進行中の列車のごとくエネルギーだ。棚の上では、真っ直ぐ天空に向かって進む直進列車や、東西南北へ自由自在にカーブしながら進行中の幾つもの蔓列車は、所狭しと行き交い雄大な景色だ。何とも勇ましく、幽玄な走行風景に、胸が高鳴る感動を覚えた。私は、微笑みながら キウイに顔を預けて、眼を閉じた。新鮮な香りが鼻から咽喉を通り越して胸の中に着地した。そして、弱く消れた自分の心に、「元氣印」が湧き出た気分になった。一本一本の蔓は逞しく伸びて、陽に光る緑の葉は、濃淡のコントラストがきらきらと上下に、左右にと緩やかに揺れて、清楚で純粋な輝きは、最高の栄養剤となって、体調を崩した身体の隅まで届き、私を凛とさせた。キウイの木が示す成長の資性の姿に、将来に前向きな信念を貫く生き方を学んだ。自分にふさわしい時期に、自然界と共生できた事に合掌して、自分の内なる灯明となりました。

※ぶんどご梅は創刊以来続いている会員のトレードマーク。



要約筆記の勉強部屋 PartIV

～筆子の覚書～

ついに2年目に突入しました、筆子です。
 今回は、タブレット端末について勉強したいと思います。このタブレット端末、
 難聴者の方とのコミュニケーションツールとして、活用の幅も広がっています。
 その機能と便利なアプリをご紹介します。



タブレット
 端末って何？

iPad を代表とする、片手でも持ち運びできる薄型の端末。スマート
 フォンの電話機能を省き、ディスプレイを大きくしたものです。
 サイズは5～10インチと種類も豊富。

キーボードが搭載されてなく、操作はタッチパネルで行います。
 使用するソフトは「アプリ」と呼ばれており、画面に追加されたア
 イコンをタップして起動します。

ノートパソコン
 とどう違うの？

デメリット
 は？

Windows 搭載の端末でないと、Office 製品 (Excel や Word) が使
 用できないため、資料の作成などに不向き。キーボードを使用したい
 時は、別途用意することになります。

起動が早く、使いたい時にすぐに使えます。小さくて持ち運びが便
 利なうえ、バッテリーの持ち時間も長い。
 画面が見やすく、文字を大きくしたり、画面を横にしてみたりと、
 複数の人が一緒に画面を見ることに適しています。

メリットは？

おすすめアプリ
 を教えて！

iPad 用のアプリが種類も豊富です。
 iPad 無料アプリを3点ご紹介します。



筆談パッド

Bluetooth 機能を使って近くにいる
 相手と手書きの文字で会話ができま
 す。自分の書いた文章は相手の iPad
 に表示され、相手の文書は自分の
 iPad に表示されます。



もじコミュ

キーボードから文字を打ち込んで
 相手に見せるだけの簡易コミュ
 ニケーションツールです。文
 字の大きさを簡単に変更できる
 ほか、入力した文字を iPad が読
 み上げる機能、音で呼びかけを
 行うブザー機能もあります。



手書き電話

離れた所にいる相手と、オンライン
 でリアルタイムに筆談やチャットが
 できるアプリです。有料化される予
 定でしたが、延期になりました。



大分県要約筆記者養成講座 に参加して

～教科「ノートテイクII」(5月25日)～

手書き・青木奈津子

午前中の講義は、ノートテイクの方法及び、利用者への対応の在り方を学びました。例題を基に、場に応じた対応の仕方や利用者の主体性を損なわない為には..など意見を出し合いながら理解を深めました。

午後からの手書きの実習では、難聴者2名と健聴者3名の模擬会議を設定し順番に難聴者の隣で



ノートテイクを行い、その後、会議の音声を録音したものを流しながらノートテイクを突き合わせ、問題点を話し合いました。

- ・交代がスムーズに出来ず、その間の情報保障が抜けてしまう。
- ・字の大きさ、用紙の使い方など利用者の分かりやすさを考えて書く。等...

本番を想定した実習をしてみて、要約力をつける必要性はもちろんですが、利用者に対する配慮の大切さを学ぶことが出来ました。



パソコン・堂道裕美

要約筆記者のノートテイクの場面での利用者への対応のあり方を学習しました。

内容としてはノートテイクでの諸注意や色々な場面での対応の仕方をグループごとに考えて発表しました。

午後からはパソコンと手書きコースに分かれて学習。パソコン・前半は、ノートテイクを行う上でのパソコンの設定(文字の大きさ、文字の色、背景の色等)を行い、後半は2グループに分かれて、その中で各役割を決め実践形式で行ないました。各役割を経験する事により利用者の立場も少しですが理解することができ、要約筆記の難しさも改めて感じましたが、とても為になる講習会でした。





平成25年度 活動計画



		研修部		企画・広報
月 日	場 所	午前学習会 (10時～12時)	午後共通学習会 (14時～16時)	
5月11日	センター会議室		ホワイトボード	イオン・イエローシートキャンペーンに今年度も参加、(毎月11日)ご協力を!
6月	要約筆記者養成講座に会員多数参加のため、学習会はなし			
7月20日	センター会議室	手書き(野上) 表記・ノートテイク	テーマ「要約」 検証(野上)	ビアパーティ 第71号発行
8月17日	センター研修室	パソコン(菅田)	テーマ「要約」 検証(平野・津田)	
9月21日	視聴覚室(会館)		合同学習会	梨狩り
10月19日	視聴覚室(未定)	手書き(野上) 表記・OHC	テーマ「要約」 講師(太田)	
11月16日	センター会議室	パソコン(宮崎)	テーマ「要約」 講師(磯田)	第72号発行
12月21日	センター ミニシアター	手書き(野上) 表記・OHC	テーマ「要約」 講師(池辺)	
1月18日	センター研修室	パソコン(岩田)	テーマ「要約」 講師(木津)	
2月15日	視聴覚室(会館)		合同学習会	
3月15日	会員交流会のため学習会はなし			交流会 第73号発行

○毎月、午後14時～16時は手書きパソコン共通学習会を行ないます。

「要約」をテーマにいろいろな音源教材を使い、講座の講師が検証を担当します。(変更もあり)

○午前は手書きとパソコンが交代で基礎学習会を行ないます。

登録要約筆記者研修会

- ① 7月21日(日)10時～15時
- ② 1月12日(日)10時～15時

場所：大分県聴覚障害者センター

☆広報部より☆

陽ざしの会 HPのご案内

毎月のお知らせ、学習会の様子、行事など随時更新しています。